

緩話

急題



科学部次長
佐藤 良明

宇宙飛行士の古川聡さん(47)が、国際宇宙ステーションで長期滞在に入った。宇宙に身を置く経験をする、地球がいとおしくなるのか、先輩の飛行士たちは、帰還後にこんな言葉を語っている。

「滑走路に降りた時、風が気持ちよかった」(山崎直子さん)

「ハッチが開くと、草のにおりがした。地球に優しく迎えられた気がした」(若田光一さん)

「空気がおいしい。新鮮ですね」(野口聡一さん)

地球について感じたままを率直に述べている。地球の自然はそうだった。もともと、心地よい風が

高まる節電意識

みん
びり

吹き、草かおる鼻なのだ。だが、冷房のきいた密閉性の高い建物の中で一日の大半を過ごしているとき、「風が気持ちいい」という感覚をあやうく忘れてしまう。

*

木の葉が生み出す自然の目かけを模した「人工木陰」が、人の集まる場所で採用され始めた。三角

に設置している。木陰を模したのだから、太陽光を完全に遮るわけではない。下に入ると、光が少しだけ漏れてくる。屋根のすきまを風が通る。

開発者の酒井敏京都大教授(52)は「日よけの涼しさは、そのま

自然はそんなものです。自然のあるがままでいきましよう」と話

す。目指したのは、訪れた人が昼寝したくなるような場所だという。「風も光も通らない屋根の下で、昼寝したいと思いませんか」

夏の午後、風通しのいい木陰で涼む。そんな時間を過ごしてもいいと思えてきた。

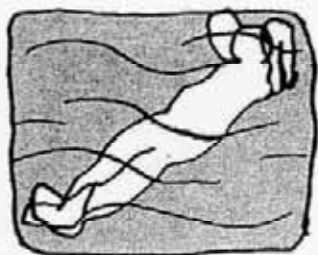
*

涼しい場所は身の回りのどこに

風と木陰思い出す夏に

すいをいくつも重ね合わせた特殊な形態の屋根を日よけにしている。東名阪自動車道・御在所サービスエリア(三重県)の休憩スペースに、この4月、高速道路では初めて採り入れられた。

昨年導入した大型商業施設「アーバンドックらぽーと豊洲」(東京都)では、港に面した庭園の中



画・田中靖夫

だつてある。ここ数年、各地でクールスポット(涼しい場所)を選定する取り組みが行われている。大阪市の中心部や川崎市高津区ではマップも作られた。

埼玉県では今月、「クールスポット100選」という市民公募プロジェクトが進行している。選ばれた涼しい場所に足を運んでもら

い、エアコンを使う時間を少しでも短縮できればという狙いだ。

東京電力が「でんき予報」を発表し、NHKニュースが電力の需給予測を連日報する今、私たちの節電感覚は随分高まったように思う。そして節電の夏は、私たちの自然に対する意識を、問い直す好機かもしれない。

地球に高度な文明を築いた私たちは、自然のすべてを把握しているとのうぬぼれを持ち、圧倒的な自然に、その幻想が打ち砕かれた。自然に対して謙虚になる。それが東日本大震災で私たちが得た教訓だ。謙虚になることは、自然をありのままに感じることから始まるのではないか。

この夏、散策でも、夕涼みでもいい。無理しない範囲のささやかなことでもいいから、「風が気持ちいい」と思わず口に出るようなことをやってみませんか？